

教職員の主体性・協働性を活かした 校内研究プロジェクトの充実

— ミドルリーダーのマネジメントの変容を通して —

学籍番号 199120

氏名 宮本 純

主指導教員 餅木 哲郎

1. 問題の所在と研究の目的

これからの時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む教育が行われるには、わたしたち教員が「学び続ける教員」であることが非常に重要である。実習校にある校内研究プロジェクトに求められているものは、まさにこのことである。そこで、本研究の目的を「校内研究プロジェクトを主体的・協働的な組織にする」「ミドルリーダーによるマネジメントの変容がどのような効果をもたらすのかを解明する」の2点とした。

2 研究について

研究 I-1 「教職員の校内研究に対する意識調査」

【目的】実習校における教職員の校内研究に対する意識の実態を把握する。

【方法】アンケート調査を実施する。項目は、報告者自身がこれまで校内研究に積極的に関わってきた中で大切だと感じていることを中心に作成し、4件法で回答してもらった。

【結果・考察】多くの教職員が校内研究は有効であり、それぞれが高い意識で校内研究に臨んでいるものの、主体的に参画する意識は低いという実態を捉えることができた。そこで、組織として校内研究に主体的に参画できるシステムを構築することの必要性を感じ、研究 I-2 に取り組むこととした。

研究 I-2 「ICT プロジェクトの組織運営」

【目的】ICT プロジェクトの組織運営の在り方を改めることで、メンバーがより主体性・協働性を働かせやすくし、教職員の校内研究に対する参画意識を高める。

【方法】新たな ICT プロジェクトの組織運営は、これまでのプロジェクトリーダー（研究部長）によるトップダウンマネジメントを改め、ICT プロジェクトのメンバーによる主体性・協働性を重視したミドルアップダウンによるマネジメントを中心とした。

【結果・考察】「授業づくりワークショップ」「見やすく・読んでもらえる指導案」「模擬授業スタイルの指導案検討会」「少人数グループでの研究討議会」の4つの創造的な具体的実践が生み出された。事後アンケートの結果、すべての実践において、多くの教員が効果的であると捉えていた。ICT プロジェクトの組織運営の在り方を改めることで、メンバーがより主体性・協働性を働かせやすくし、教職員の校内研究に対する参画意識を高めることができた。大きな要因として、以下にあげる3点が重要であると考えた。

①組織編成を改めることで主体性や協働性を生み出したこと。

- ②メンバーで話し合い、実践を決めていくことにより、チャレンジ意識が共有できたこと。
- ③各学年部会のリーダーに権限を委ねたことで、リーダーが与えられた役割を自覚し、自分にとってプラス（糧）にしようという意識で取り組んだこと。

研究Ⅱ-1 教職員のPLC実感に関する意識調査（PLC…専門的な学習共同体）

- 【目的】実習校における教職員のPLC実感に関する意識の実態を把握する。
- 【方法】アンケート調査を実施する。項目は、露口（2013）が作成したPLC尺度を活用し、実習校の実態に合わせて報告者が文言を修正し、4件法で回答してもらった。
- 【結果・考察】実習校の教職員が校内研究プロジェクトに対して概ね主体的に取り組んでいる現状が伺えた。一方、互いに授業を見せ合い、フィードバックする機会が十分ではないとわかった。そこで、プロジェクトリーダーが課題を共有することで、各プロジェクトが自律的な研究ができるようになることを考え、研究Ⅱ-2に取り組むこととした。

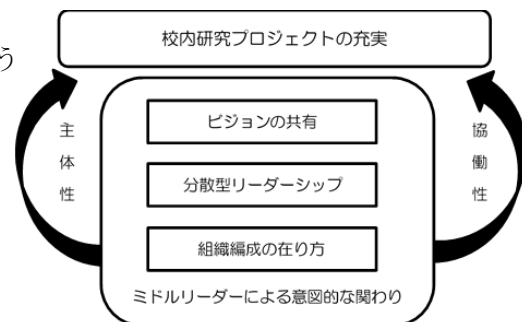
研究Ⅱ-2 プロジェクトリーダー部会の組織運営

- 【目的】プロジェクトリーダー部会を組織し、運営することで、プロジェクトリーダー間での情報交流や意識の共有を高め、学校全体としてのPLCを醸成する。
- 【方法】プロジェクトリーダー部会で、どのような話し合いがなされ、実践につながったのか、さらには、プロジェクトリーダー部会が、各プロジェクトリーダーのマネジメントの在り方にどのような影響を与えることになったのかについて記録し、分析する。
- 【結果・考察】事後アンケート調査の結果から、実習校における教職員のPLC実感は高まりつつあるということがわかった。コロナ禍で、各プロジェクトリーダーがリーダーシップを発揮し、マネジメントを工夫したことの成果が表れ始めている。プロジェクトリーダー部会は回を重ねるごとに「情報共有の場」「ビジョンの共有の場」「協働的な対話の場」とその役割に高まりが見られるようになり、プロジェクトにおいて創造的な具体的実践を生み出すための懸け橋となり、さらに、ミドルリーダーのマネジメントをより良いものに変容させていこうという意識を高めるための組織となっていく。

3 総合考察

本研究を通して、報告者は、実習校の校内研究プロジェクトを充実させるために、ミドルリーダー（プロジェクトリーダー）が行う意図的な関わりとして、以下に挙げる3点についての重要性を見いだした。（右図参照）

- ①教職員が主体性・協働性を働かせやすくするような組織編成の在り方を考えること。
- ②研究プロジェクト内で分散型リーダーシップが発揮されるようにマネジメントをすること。
- ③校内研究プロジェクトのビジョンを明確に理解し、メンバーに浸透させていくこと。



【引用・参考文献】

露口健司 2013 専門的な学習共同体（PLC）が教師の授業力に及ぼす影響のマルチレベル分析
日本教育経営学会紀要第55号 66-81